

心に届く読みを活かした作文の工夫

——(高校3年生の場合)——

堀江 マサ子

はじめに

読むことを書くことに組み込んで作文させることは、私の作文教育の根幹である。ここでは、その読むことを一工夫して心に届く読みの実践の後の作文について報告する。

心に届く読みとは、生徒一人ひとりの読みが生徒の個性と合致して納得のいった読みとなることである。生徒が文章を読んで考え、なるほどそう思う、あるいはそうは思わないと、自分独自の考えを確立していくには、何か工夫が必要なのではないか。方法として、読みの段階で、インタビューを取り入れて自分のものとさせたり、登場人物の心中詞を考えさせたり、漫画を活用してイメージ化を図ったりして、生徒の心に届く読みをさせてから作文させる工夫をした。昨年度の三年生の実践例の中から、現代文と古典一例ずつ、「無常」ということ(小林秀雄)と「源氏物語」の実践例を紹介する。

1 インタビューを取り入れて自分のものとさせてから作文させる工夫

——「無常」ということ(小林秀雄)の実践から——

(1) 現状と課題設定

三年生後半になり、かなり評論を読むことにも慣れてきた。しかし、小林秀雄の評論はその特徴を捉えないと、まだまだ生徒には抵抗があると思われる。その読み方を学ばせると共に、その評論の内容を実感させないと、生徒はこの評論のアウトサイダーになるおそれもある。そうならないための工夫の一つでもある。

(2) 仮説と授業構想

教師が中心になって評論を読解していくよりも、グループ学習を活用し、インタビューを取り入れて自分のものとさせてから作文させる授業方法の方が良いのではないか、という仮説を立てた。授業構想の概略を、次に掲げる。

①「無常」ということ」の予習プリント配付

②授業プリント配付

③グループ学習を活用し、インタビュー形式を取り入れて本文を自分のものとさせる。

④作文(三年前に行った時の「無常ということ」の生徒作文を例として配付している。)

⑤作文の発表

(3) 授業の実際

〈第一段〉の授業の実際の流れの概略を、次に掲げる。

* 「一言芳談抄」を句読点で区切って、一人の読みに続いて全体が読む。

* 「なま女房」の祈りのことばに「」をつける。

* 「その心」を「人にしひ問はれ」た時「なま女房」が言ったことばに「」をつける。

* 「」と「」の部分のみ全体で読む。声をそろえて読ませる。

* 「一言芳談抄」の(比叡の以下の)「登場人物」「なま女房」

「人」をそれぞれイメージさせ、「いつ」「どこで」の確認をさせる。

* 「なま女房」に「インタビュー」する。

〈次のことは必ず考慮に入れる。〉

① 「なま女房」はなぜ「いつはりてかななぎのまね」をしたのか。

② 「なま女房」はなぜ「夜うち深げ、人しづまりて後」にしたのか。

* 「なま女房」の「心」を考えたいので、生徒各自の祈りのことばとする。

* 「そんな経験」の内容理解をする。

* 「そう」のさす内容理解をする。

* 「そういう」のさす内容理解をする。

* 「小林秀雄」の文体の特色を理解する。

* 「小林秀雄」に「一言芳談抄」の本文を「いい文章だ」と思っただけを「インタビュー」する。

この授業の詳細の一部を、次に掲げる。

* 「なま女房」に「インタビュー」する。インタビューの形式は四人をグループにし、問とその回答を班で考えてカードに書いて提出させた。次がその例である。

インタビューの問	その答
どうしてこんな所に来たのかね。わけを言いたまえ。わけを。	もう、他に何も頼るものがありません。親を亡くしてはや半年。心休まる日は一日としてありません。移りゆく世の中では、何も望みはございません。せめて、死してからは安らかになれるよう、お救い下さいませ。
①なぜ巫女のまねをしていたのですか。	①どうしてもこの神社でお祈りをしたかったからです。
②何かあったのですか	②ご主人がお亡くなりになられて、人生のかなさを感じました。

③何を熱心に折っていたのですか。

④なぜ夜中に来たのですか。

⑤つづみなど打って、人が聞きつけ巫女でないことがばれたらヤバイと思わないのですか。

③人の生死は自分では決められないという無常観で、来世では、人がもつと幸せに生きられる世の中であつてもういたいということを祈っていたのです。

④昼間は参拝客が多くて、私の祈りなど聞き届けてもらえないと思い、こんな静かな夜中に私の祈りだけを聞いてもらいに来ました。

⑤とにかく必死だったので、そこまで気が回らなかった。

なお……でグループごとに区切っている。

*「小林秀雄」に「一言芳談抄」の本文を「いい文章だと思った」わけをインタビューする。

●「生死無常の有り様を思ふに、この世のことはとてもかくても候ふ。なう後世を助けたまへ」というところにとても感動しました。中世の女性は、いつでも命の保障ができない時代で、生死が無常ということをしつかりわきまえていたということがよく分かりますね。

●心地よいリズムがある文章だから。

●若いのに無常ということを理解しているから、いいと思った。

●奇怪な雰囲気を感じ

●なま女房の祈りに心うたれた。

*「ていとうていとう」や「なうなう」の聞いた感じがよい。

*若いのに無常を理解している。

●無常

*女房が一途だから。

*静かな雰囲気

●なま女房が若いにもかかわらず、無常ということをつかっていたこと。

●なま女房が無常ということを理解していて、言葉に不思議さがあるから。

●自分も同じような心境にあつて共感したため、心に残った。

●後世のことに重点をおいている考え方がすごいと思った。

*女のけなげさが心にしみた。

*わざわざ夜来たのに、「ていとうていとう」と大きなつづみを打っていた矛盾がおもしろい。

*「小林秀雄」に、何でもインタビューしよう。インタビューの形式は前例と同じである。その例を、次に掲げる。

インタビューの間	その答
無常と常なるものの境は何か。	動物的状态の中で、精神的に感動するかわらないかということ。
無常がいいのですか。	無常がいいのではなく、人間は生まれてからずっと無常が伴っているのであって、その節々に常なるものが起こるといふことを言いたいです。

<p>常なるものを見失った現代人はどうすればとりもどせるのか。</p> <p>なま女房のどういう姿勢が無常が分かっているといえるのか。</p> <p>食事をするということは無常ですか。</p> <p>映画で感動したときは無常？</p> <p>ライブに行くとか、彗星を見るとかは無常なのか、常なるものなのか。</p> <p>なぜ常なるものになるのか。</p> <p>学校の授業は？</p>	<p>危機意識を持つべきである。</p> <p>中世の人は常に危機感を持っているため、死後のことを考えている姿勢。</p> <p>無常です。</p> <p>常なるものです。</p> <p>感動したり美しいと感じられれば常なるものです。</p> <p>その人にとって満ち足りた時間であればどんなことでも常なるものになる。</p> <p>無常……毎日の授業内容が違うから。常なるもの……毎日あるものだから。(シャレ?)</p> <p>無常は生滅・流転・永遠に変わらないものはないということなので、死んでいる状態は常なるものなので無常の中に存在する。</p>
<p>かぜをひいていることは無常ですか。</p>	<p>無常です。かぜは一年中ひいているものではないからです。</p>

愛は？
友情は？
出家しようとするとき
は？
どうしたら現代人は常なるものを見失わないでいられるのか。

無常です。
無常です。人の心はすべて無常です。
この世の無常を感じるときなので常なるものなのです。
常に自分の生活や行動をみなおして考えたり反省すればよい。

このように生徒一人ひとりの内面に「無常ということ」を根付かせて作文させた。作文は文体や内容の違いこそあれ、本文が自分のものとなっているものばかりであった。

まず、「小林秀雄」の感性を捉えて書いた例を、次に掲げる。

常であるはずのもの

A

人が動物から長い年月を経て変化を遂げたとき、人は動物とは一線を引くようなものを入れた。それは鋭く豊かな感性というものである。それによって生み出された文化というものの中で、人は満ち足りない生死の無常を満ち足りた時間で埋めあわせてきたのだから。

人が過去に生き、そして死んでいった今もなお後世に影響を与え生きている証拠、それはそうした文化から生み出された文字や遺跡が残っていないかたたらなかつただろう。

この世は無常で人の生死は夢いものである。したがって人の中にある記憶というものも永遠ではない。ところが人から人へと伝えることよってその記憶は永遠なるものへの可能性が生まれる。この記憶の永遠性によってわたしたちは歴史の世界に溶けこみ、

生きることができるのだ。

しかしながらそういう満ち足りた幸福な時間に日常性はない。むしろ、いつも満ち足りないからこそ、いつも時間を求めることが人としての日常であった。

歴史の中の人々は、人としてのありのままの姿をメッセージとして現代人へ送り続けている。一秒前の未来は、一秒後には現在になり、二秒後にはすっかり過去になってしまう。だからわたしたちはつい急ぎ足になってしまいが、時間に急ぐ機械になってはいけない。そんなときこそ、ありのままの姿を求めるかつての日常を日常とし、常なるものを常であるはずのものとするべきなのだ。わたしたちは感性というものをもっているからである。

(以下、生徒の作文省略)

(4) 実践を通して分かったこと

生徒にとって難しいと思われる評論もグループ学習を活かし、インタビュを取り入れると生徒各自のものとなってくる。三年前の三年生と同じ教材で作文させたものよりも、質の高い文章となっている。また、分量的に長くなっていた。

グループ学習を活用し、インタビュを取り入れて自分のものとさせると、評論が生徒各自のものとなってくる。それが、作文力に繋がるのである。

2 古典講読「源氏物語」における作文の工夫

——「桐壺」「若紫」「薄雲」「若菜上」「柏木」「御法」「浮舟」の巻の実践から——

ここでは、工夫のみを紹介する。

【工夫1 音読用プリント】

三日がほど、

かの院よりも、

主の院方よりも

いかめしくめづらしきみやびを尽くしたまふ。

対の上も

事にふれて、ただにも思されぬ世のありさまなり。

げに、かかるにつけて、

「こよなく人に劣り消たることもあるまじけれど、

また並ぶ人なくならひたまひて、

はなやかに生ひ先遠くあなづりにくきけはひにて移ろひたま

へるに、
なまはしたなく思さるれど、

つれなくのみもてなして、

御渡りのほども、もろ心にはかなきこともし出でたまひて、

いとらうたげなる御ありさまを、

…〔源氏は〕

いとどあり難しと思ひきこえたまふ。

③ やつぱりこの人は素敵なんだ。早く一緒に暮らしたい。

② 薫の想いが、自分をもっと罪深くさせてしまふ。何も知らない薫に、そのことまで知っている自分が向き合おうとするなんて、一番罪なことだ。

③ 長い間会わないうちにこんなにも女らしくなっていたんだ。自分のせいで、この人もさみしくさせてしまった。罪深いことよ。

② 私はどうしたらいいのか……。この人と今まで通りにつきあえるのだろうか……。

③ 浮舟はいい女になって、いつそう好きになった。

この「一六 あやふき契り」の後、「宇治川下り（浮舟）」の部分、新潮古典集成（P52/L5、P58/L8）をプリントして授業を行った。特に「女も脱ぎすべさせたまひてしかば、」の「させ」が使役であること、二人の愛の確認の後の句宮の「姫宮にこれをたてまつりたらば、いみじきものにしたまひてむかし」と浮舟を女房として扱おうとしていること、その後の「いみじくおぼすめる人は、かうはあらじよ。見知りたまひたりや」とのたまえば、げにと思ひて、うなづきてゐたる、いとらうたげなり。」と浮舟を魅了していく箇所は、説明を加えた。この、雪の中の宇治川下り、隠れ家でのことの授業内容は、迫力があり、リアリティのあるものであった。生徒は「どきどきしてくる」と言っていた。

（時間の都合上この実践は一時間）

次に、教科書所収部分「一七 宇治の川音（浮舟）」を行った。

この箇所は、ほとんど会話と心中詞からなる。それを視覚的に分かるように、会話と心中詞で改行し、その主体を明示したプリントを作り授業をした。宇治の世界が都の世界とは異なっていること、物語展開の担い手たちが受領階級の女になっていることを確認した。（この授業も宇治十帖に対する私の思いへ鐘の音を聞いて入水する浮舟や、薫が正妻に浮舟のことを語るとき「されどそれは、数にだにはべるまじ」というところなど）もいれて一時間扱い）プリントの一部を次に掲げる。

【工夫3 内容が視覚的に分かるようにしたプリント】

（前略）

母君「ゆゆしき身とのみ思うたまへしみにしかば、こまやかに見えたてまつりきこえさせむも何かは、とつつましくて過ぐしはべりつるを、うち捨てて渡らせたまひなば、いと心細くなむはべるべけれど、かかる御住まひは、心もとなくのみ見たてまつるを、うれしくもはべるべかなるかな。世に知らず重々しくおはしますべかめる殿の御ありさまにて、かく尋ねきこえさせたまひしも、おぼろけならじ、と聞こえおきはべりにし、浮きたることにやははべりける。」

など言ふ。

母君「後は知らねど、ただ今はかく思し離れぬさまにのたまふにつけても、ただ御しるべをなむ思ひ出できこゆる。宮の上の、かたじけなくあはれに思したりしも、つつましきことなどのおのづからはべりしかば、中空にとろせき御身なり、と思ひ嘆きはべりて。」
と言ふ。

尼君うち笑ひて、

〔尼君〕「この宮の、いと騒がしきまで色におはしますなれば、心ばせあらむ若き人、さぶらひにくげになむ。おほかたは、いとめでたき御ありさまなれど、さる筋のことにて、上のなめしと思さむなむわりなき、と大輔がむすめの語りはべりし。」

と言ふにも、

〔浮舟〕「さりや、まして、」

と君は聞き臥したまへり。

〔母君〕「あな、むくつげや。帝の御むすめをもちたてまつりたまへる人なれど、よそよそにて、あしくもよくもあらむは、いかがはせむ、とおほけなく思ひなしはべる。よからぬことを引き出でたまへらましかば、すべて、身には悲しくいみじと思ひきこゆとも、また見たてまつらざらまし。」

など、言ひかはすことどもに、いとど心肝もつぶれぬ。

(後略)

実践して、提出された作文の中で、会話によつて作文が展開されている例を、次に掲げる。

〔浮舟の女房たち〕

G

いつの世も、女性というものはうわさ好きである。ここ数ヶ月、宇治の若い女房たちのうわさのネタといえは一つしかない。いわく、「薫の君と匂宮では、どちらがいい男か」。今日も暇を見つけては女房たちはそこらかして好き勝手な議論にふける。

「浮舟様のお相手でしたら、やはり薫の君でございましょう。」

「そうですね。やはり匂宮様とでは世間体が悪すぎますもの。」
「あら、けれど浮舟様は匂宮様の方がお好みの方ですわよ。私も、薫の君は少し……。」

「あの方は女心をあまり理解していらつしやらないようですものね。まじめで誠実といえは聞こえはいいですけど。」

「けれども匂宮様は有名な女好きではありませんか。それでは浮舟様がおかわいそうです。」

「あら、そんなことおつしやっても、薫の君もしつかりとした北の方がいらつしやいますし、そもそもあの方が好きだったのは浮舟様の姉君でしょう。なんだかんだ言ったところで匂宮様と何ががうのかしら。」

「それはそうですね。」

そして今日も宇治の一日は終る。浮舟の苦惱は続くばかりである。〈指導者のコメント〉会話(女房の)によつて物語が展開されている点がおもしろいです。

では、どのように生徒の心に届いたかを、古典講読の最後の時間「三年間の国語生活をふりかえって」の作文例の中から、指導者の工夫について書かれたものを、次に部分のみ簡条書きとして掲げる。

〔三年間の国語生活をふりかえって〕

●でも、私を単なる「国語が好き」から卒業させてもらったのは市立の国語の授業でした。私はこの三年間で、「考える国語」を学びました。「考える」というより、「自分の意見を出す」とした方がいいかもしれません。

●よく考えてみると、これまでの国語人生の中で、こんなにも小

論文（作文）を書いたのも初めてでした。今思えば、文を書いていた時の時間というのは、とても貴重なものだったと思います。なぜなら、文を書いている時は心があらわれているような気がして、なんとなく居心地の良さを感じたからです。（中略）具体化された解説や本文をわかりやすく手直しされたプリントは授業をうける上でとても役立ちました。

●「源氏物語」を学び始めてからはもつと文学に興味を持ちました。今まで私は、問題を解くことばかりを考えて、ただ書かれていることを読むという感じだったと思います。でも「源氏物語」を学んで、「源氏物語」を書いた紫式部を知り、そして当時の文化や考え方や風習などを同時に知ったりして、本文がすんなり自分の心に入ってきました。

●でも、最近になってやっと源氏物語をぐつと近くに感じるようになりました。（中略）みんなの作文からは、自分の表現の下手さを痛感するとともに、みんながどのように源氏物語を解釈し、どんなふうに感じているのかがよく分かり、良い刺激になりました。（波線は指導者が施した。）

これらの作文例には、作文を書くことにより、「考える国語」となったこと、作文の意義、書くことがカタルシスになったこと、書いていくうちに、書くことが嫌いではなくなったこと書くことの持続の効能、「源氏物語」の古典講読の良さ、クラスメートの作文によって自分の世界が広がったことが書かれている。それぞれどの作文からも、「源氏物語講読」の教育的意図は、生徒に伝わったと考えられる。

おわりに（結果の考察）

読むことを書くことに組み込んで作文させることは、私の作文教育の基本である。ここでは、その読むことを一工夫して心に届く読みの実践の後の作文について報告した。

方法として、読みの段階で、インタビュを取り入れて自分のものとさせたことは、加藤宏文先生のおこぼを借りれば「自分で問うからこそ、答えること」ができたのである。人間生きていく途上で他者に聴くことはもちろん、自分自身に問うことがどんなに多いことか。このインタビュは、また、グループ内で作りあげたものである。生徒たちはグループ内でコミュニケーションが取れているので、質問・内容ともに個人を超えるものとなったと考えられる。登場人物の心中詞を考えさせたり、漫画を活用してイメージ化を図ったりしたのは、生徒の心に届く読みをさせるためのものである。なお、「無常ということ」「源氏物語」の実践過程の中で、インタビュさせたり、心中詞を書かせたりする作業は、授業の後半に持ってきた。後半で書かせて回収し、次の時間にはプリントにして生徒に配付した。前半の読みの緊張感を後半で解放させて、自由な発想が出てくるように配慮したのである。また、グループ学習をさせると時間的にグループ差が出てくる。その差を考慮に入れて、この作業を授業後半に持ってきた。

文章を生徒各自の心に内在化させた方が、質・量ともに充実した作文になっていた。

（浜松市立高校）